

川柳マガジンクラブ東京句会 3月

平成20年3月9日 駒込学園にて

出席者 25名

村田倫也、伊藤三十六、石田きみ、加藤 鯉

山口兄六、小倉利江、石崎流子、関 玉枝、

井手ゆう子、甲野竜雄、白勢朔太郎、高田以呂波、棚瀬くんじ、若山かなな、五十嵐淳隆、山口千枝子、河野桃葉、渡辺まもる、横山きのこ、藤井成子、水野絵扇、渋川溪舟、星出冬馬、植竹団扇、松橋帆波

欠席投句4名

加藤品子、宮内みの里、三浦哲夫、五味田達也

互選・互評 「天井」

1点句

天井の仏画ポカンと負の時間 桃葉

喜怒哀楽天井すべてお見通し ゆう子

天井に届く背丈の子に小言 以呂波

天井画首の痛さも忘れさせ 玉枝

空の果て天井あれば星が空 まもる

天井のカメラ私を俯瞰する ゆう子

掌を打てば龍が答える天井画 利江

幻覚だ人の目玉が添乗に 達也

一八〇柱の疵も追いつけぬ 千枝子

天井にヤモリ張り付く四畳半 達也

愚痴ばかり聞いて天井五月病 冬馬

限度額増えたかダルマまだ溶けず 兄六

2点句

マイホーム天井裏にある偽装 三十六

天井の棧敷で軋む僕の椅子 三十六

いぶがりつくくすぶりあやす囲炉裏の火 きのこ

天井のねずみがつかむ隠し事 哲夫

天井の節目が顔に見えてくる 絵扇

青天井何時か暗雲たち込める 倫也

大の字になると目が合う四畳半 きのこ

洗濯物天井に吊る花粉症 桃葉

天井を思索の友に病み続け 溪舟

天井が怖い一級建築士 帆波

パンまでも天井知らずの物価高 流子

3点句

団体が去って鳴き竜のど薬 まもる

天井を睨む哲学者の顔で 利江

ふるさとに絶えて蚕の棚が無い 団扇

ぶつかるよ高い高いとあやすパパ 成子

病室の天井にある夢の跡 三十六

マルサの目天井裏を見逃さず みの里

応援の熱気こだまになるドーム 溪舟

人の世を天井知らぬ欲と生き 利江

独房の天井に描く青い空 鯉

4点句

死ぬ時は白い天井拒否したい 倫也

天井の白さと座禅めくベッド きみ

天井を揺らす二階の若夫婦 竜雄

屋根裏を乱歩が散歩して困る 団扇

天井へ届いた俺の棒グラフ 淳隆

◎5点句からは選出者、作者にコメントを頂きました。

5点句

千社札あんな所に江戸は生き 品子

天井を駆けた昭和のねずみ達 朔太郎

絵扇 ねずみで同級生の男の子たちが、学校の天井裏から更衣室を覗いたという出来事を思い出した。

倫也 最近の家はあまりネズミが出ないの
で、そういう点で、昭和の思いが出ている
と思った。

天井の汚れ気になるうがい時 玉枝

以呂波 漫画チックで面白い風景。

きのこ 素直に詠んだいい句だと思う。

ゆう子 就寝時に天井に眼が行くという同想を
考えたが、うがい時に天井に目が向く
という視点が良かった。

かん菜 日常的な風景から組み立てたところが
いい。

作者 床は気になるが、天井はめつたに見ない
のでそのことを素直に詠んだ。

釣り屋根が腐り始めた国技館 淳隆

流子 時事句として見た。腐り始めたという
表現がいい。角界の今を捉えている。

桃葉 時事句として評価した。

成子 今の相撲界。釣り屋根という言葉が、
今の理事たちと重なる点も面白い。

作者 あれを釣り屋根と呼ぶのかどうか、調
べ切れなかったが、評価をいただきあ
りがとうございました。

返品の山で二階の床が抜け 淳隆

以呂波 さぞ大変な音がしただろう、と状況を
想像して面白かった。

きのこ 一階の天井は二階の床だという発想で
句を作りたかったが、上手くできな
かったので、この作品は良くできてい

と思った。

流子 時事作品として頂いた。中国の餃子の
返品が続けばこのようになるのでは、
と想像した。

作者 なんとか課題を読み込まないで作ろう
とした。そこで状況をオーバーに捉え
てみました。

燻されて藁天井は強くなる 玉枝

まもる 煙というものは普通嫌われものだが、
それがひと働きして天井を強くしたと
いう表現が面白い。

溪舟 弱い藁も燻されて腐らない強い屋根に
なる。人間もきつと煙たがられて強
くなるのでは、と思った。

ゆう子 一読してなるほどと思う。

桃葉 今はあまり見られなくなった風景だが、
田舎の屋根葺のときに丈夫な竹などが現
れてくることを思い出し評価しました。

作者 民話の里や囲炉裏という言葉を使いたか
ったが、上手くいかずそのまま詠った
が、評価をいただきありがとうございます。

7点句

落ち込んだ日の天井はただ無口 冬馬

帆波 同想が多い中で下五の「ただ無口」と
いう表現から広がっていく句意を頂き
ました。

兄六 人は落ち込んだときには上を向くこと
が多いと思う。部屋でボーっとして天
井を眺め て考えがまとまらないと
いう状況が浮かんで、面白いと思いま
した。

鯉 落ち込んでいる時は天井が高く感じ
る。そこで「ただ無口」という下五が
とても上手いと思いました。

作者 ものすごく落ち込んだときは天井も一
緒になって苦しんでくれているような

そんな想いを詠みました。たくさんの評価ありがとうございます。

9点句

天井が宇宙一人の四畳半 溪舟

竜雄 「宇宙」という表現の大きさが良い。

鯉 昔、四畳半に住んでいた事があるが、

無限大に夢が広がっているような、その時期を思うと宇宙という表現が良いなと思いました。

朔太郎 天井で四畳半という発想が良い。他にも二句あるがその中でも「宇宙」という表現がよいと思いました。

倫也 学生時代の下宿を思った作品では。将来の夢を描いていた青春時代の思い出の句だと思う。

桃葉 「宇宙」が良い。色んな空想が出来て誰

にも邪魔されない素晴らしい宇宙だと思う。

作者 学生時代の下宿での、無限に広がる妄想や空想を懐かしく思い詠んだ作品です。

天井を見つめて堕ちたなと思う 帆波

溪舟 くやしい時、悲しいとき男は涙を流さず上を向くもの、そういう事が伝わる句でした。

朔太郎 読んでみて平易な表現だが深い作品だと感じた。

くんじ いろいろ考えて上手いかなという思いが「堕ちた」というところで感じられる。

きのこ 静かな句だが、じっくり考えて自分の気持ち表現している句だと思う。

成子 ひとりの時を考えると「堕ちた」という表現に実感がわく。

竜雄 若い頃仕事で方々を回った時のことを思い出した。

団扇 「堕ちたかな」ではなく「堕ちたな」と

いう部分が以詐欺いと感じた。

作者 半分は女性の思いを想定して作った作

品。あえて「堕ちた」という表現を使った。

10点句

天井からしたたり落ちてくる懐古 鯉

まもる 回顧を思い出と同義とすれば、良い思

い出、悪い思い出、それぞれが「滴り落ちてくる」という表現で捉えられており、とても良いと思いました。

団扇 天井を見ていろいろなことを思う作品の

中で一番深かったのではと思う。一点からフツツと滴り落ちると、あちこちからも落ちてくる。そういうことをイメージすると凄く良い作品だと思います。

淳隆 滴り落ちるのものは、昭和か大正か、そういうイメージをすると面白い作品だと思います。

流子 くすんだ茅葺や、染みのある天井が思われる。ツイブイフォーではこうはいかない。

利江 今流行の「三丁目の夕日」のイメージ。

冬馬 「滴り落ちる」止めようと思っても止まらない、次から次からいろいろな思い出が落ちてくる。

朔太郎 「天井から滴り落ちてくる」で災害を思った。

作者 眠れない夜の作品でした。たくさんの評価ありがとうございます。

分からないという声があった作品
ライブドア僕が買ったら逮捕され

作者 天井を入れないで作って見たかった。

大喜利的な作り方をしてみた。その事象、株価や世間の盛り上がり、の天井を捉えてみました。

天井に極楽があり天女舞う

作者 寺社の天井に描かれている絵を思つて

詠んだ作品です。

シャンソンが溶ける天井封のまま

作者 シャンソンを聴きながら、そしてシャ

ンソンと共にある様々な思いを、天井
に封印しているという思いの作品。

限度額増えたかダルマまだ溶けず

作者 天井を限度、限界と捉えて、借金の限
度額とした。ダルマは雪だるまの意
味。